

決算説明資料

(2021年12月期 第2四半期決算)

2021年8月6日
東証2部

オーナンバ株式会社

目 次

ONAMBA CO.,LTD.

- I . 決算の概要(PL、BS、CF等)
- II . 2021年12月期 第2四半期のトピックス
- III . 2021年12月期の経営戦略
- IV . 2021年12月期の業績予想

I. 決算の概要

ONAMBA CO.,LTD.

〔連結損益〕

(単位:百万円)

科 目	2020年第2四半期累計期間		2021年第2四半期累計期間		増 減	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	増減率
売上高	15,295	100.0%	18,509	100.0%	3,214	21.0%
売上原価	12,708	83.1%	15,163	81.9%	2,455	19.3%
販売費・一般管理費	2,362	15.4%	2,536	13.7%	174	7.4%
営業利益	224	1.5%	809	4.4%	584	260.2%
営業外収支	78	0.5%	145	0.8%	67	86.5%
経常利益	302	2.0%	955	5.2%	652	215.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	61	0.4%	793	4.3%	732	—

《売上高》

自動車・産業機器用製品などの成長分野での需要が回復基調にあり、同分野での製品開発・新規開拓の促進などに積極的に取り組んだ結果、ワイヤーハーネス部門、ハーネス加工用機械・部品部門の売上高が増加し、売上高は18,509百万円(前年同期比21.0%増)と前年を上回りました。

《営業利益》

売上高の増加に加え、販売品種構成の良化、積極的な原価低減活動及び販管費の抑制などにより、銅価格や物流費の影響はあったものの、営業利益は809百万円(前年同期比260.2%増)と前年を上回りました。

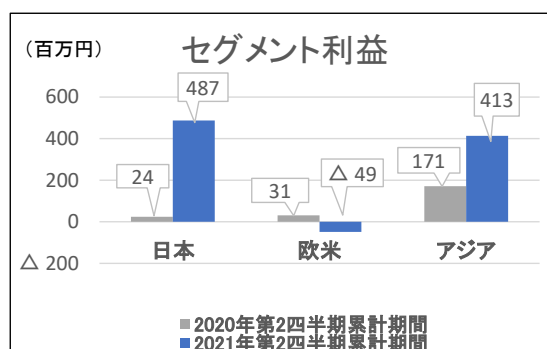
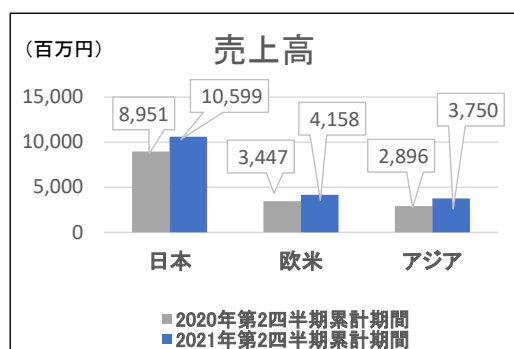
《経常利益、当期純利益》

為替差益の増加と関係会社清算益の増加により、経常利益は955百万円(前年同期比215.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は793百万円(前年同期は61百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益)と前年を上回りました。

3

セグメント情報

ONAMBA CO.,LTD.



《日本》

自動車・産業機器用製品などの成長分野での需要が回復基調にあり、同分野での製品開発・新規開拓の促進に積極的に取り組んだ結果、ワイヤーハーネス部門、ハーネス加工用機械・部品部門の売上が増加し、売上高は10,599百万円(前年同期比18.4%増)となりました。

売上高の増加に加え、販売品種構成の良化、積極的な原価低減活動及び販管費の抑制に努めた結果、銅価格や物流費の影響はあったものの、営業利益は487百万円(前年同期は24百万円の営業利益)となりました。

《欧米》

半導体不足による自動車産業での生産調整の影響などにより、自動車用製品などのワイヤーハーネス部門の売上への影響がありましたが、前年同期は新型コロナウイルス感染症の影響でメキシコ工場の閉鎖があったため対前年同期では増収となり、売上高は4,158百万円(前年同期比20.6%増)となりました。利益は、世界的なコンテナ不足による物流費の増加、銅価格等材料高騰の影響などにより、営業損失49百万円(前年同期は31百万円の営業利益)となりました。

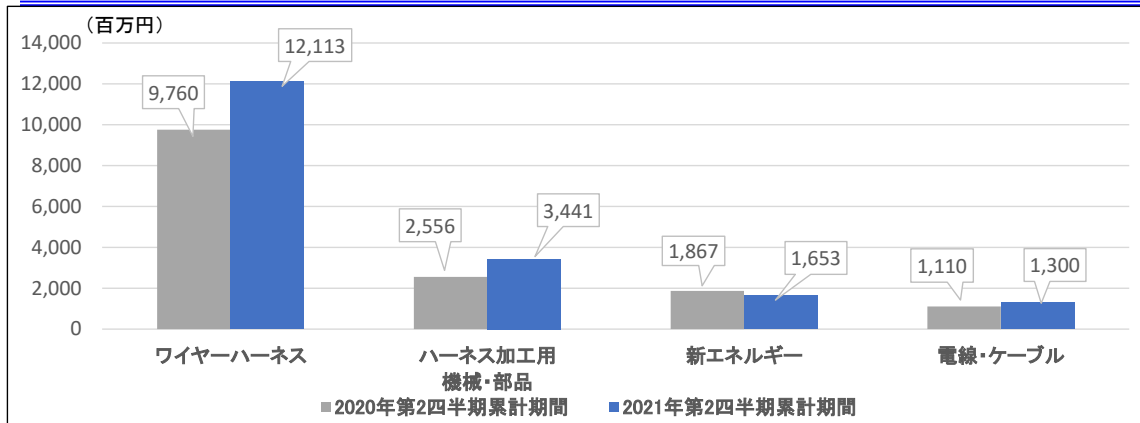
《アジア》

中国市場などアジアの地域で需要の回復が見られるなど、自動車・産業機器用製品などのワイヤーハーネス部門の売上が堅調に推移し、売上高は3,750百万円(前年同期比29.5%増)となりました。売上高の増加に加え、積極的な原価低減活動及び生産効率化による量産効果などにより、営業利益は413百万円(前年同期比141.2%増)となりました。

4

部門別売上高

ONAMBA CO.,LTD.



《ワイヤーハーネス部門》

自動車・産業機器用製品などの成長分野での需要が回復基調にあり、製品開発・新規開拓の促進などに積極的に取り組んだ結果、売上高12,113百万円(前年同期比24.1%増)となりました。

《ハーネス加工用機械・部品部門》

自動車関連・産業機械分野などの成長分野での需要が回復基調にあり、製品開発に積極的に取り組んだ結果、売上高3,441百万円(前年同期比34.6%増)となりました。

《新エネルギー部門》

太陽光発電関連製品の海外メーカーとの競争激化により、前年を下回る販売となりました。一方で新エネルギー分野での新規システム開発、販売促進などの施策を進めましたが、前年を下回る売上高1,653百万円(前年同期比11.5%減)となりました。

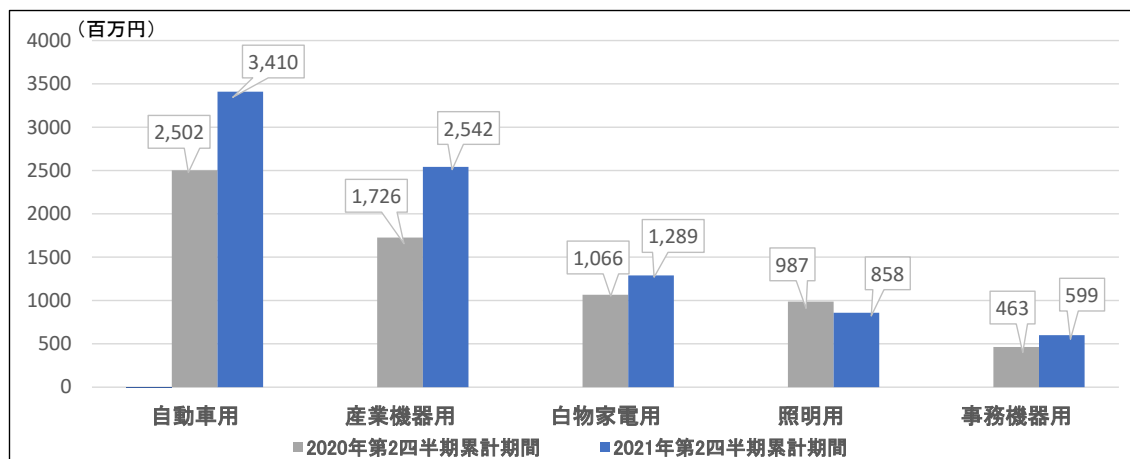
《電線・ケーブル部門》

日本国内での産業機器向け電線の需要の回復により、売上高は1,300百万円(前年同期比17.2%増)となりました。

5

ワイヤーハーネスの主な製品別売上高

ONAMBA CO.,LTD.



《自動車用分野》

自動車用製品の需要が回復基調にあり、製品開発・新規開拓の促進などに積極的に取り組んだ結果、3,410百万円(前年同期比908百万円、36.3%増)となりました。

《産業機器分野》

産業機器用製品の需要が回復基調にあり、製品開発・新規開拓の促進などに積極的に取り組んだ結果、2,542百万円(前年同期比816百万円、47.3%増)となりました。

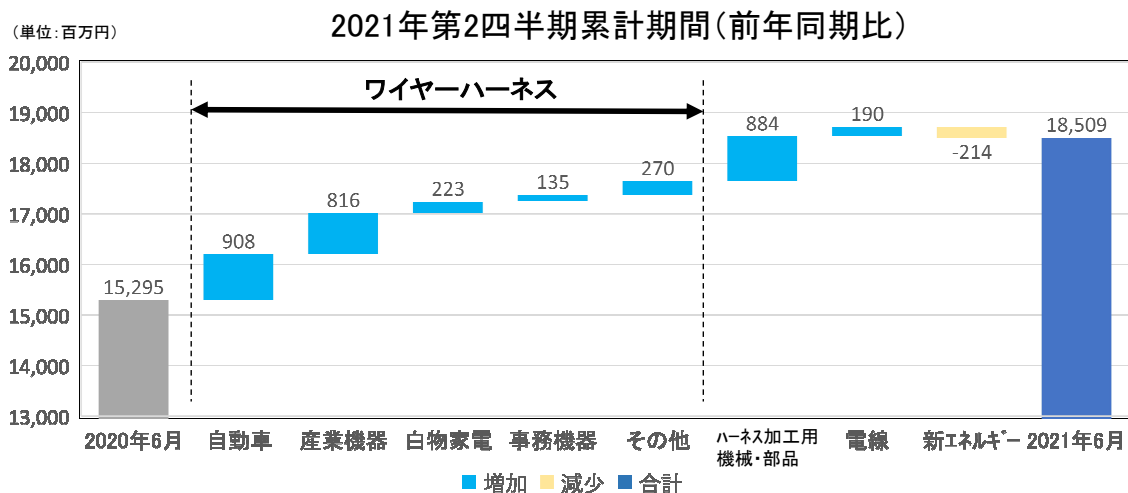
《白物家電用分野》

欧州での空調用ハーネスの需要が堅調に推移したことにより1,289百万円(前年同期比223百万円、21.0%増)となりました。

《事務機器用分野》

巣ごもり需要を背景に事務機器用製品の需要の回復により599百万円(前年同期比135百万円、29.3%増)となりました。

6



【主な増加要因】

- 《自動車用分野》 自動車用製品の需要が回復基調にあり、製品開発・新規開拓の促進などに積極的に取り組んだ結果、908百万円増(36.3%)となりました。
- 《産業機器用分野》 産業機器用製品の需要が回復基調にあり、製品開発・新規開拓の促進などに積極的に取り組んだ結果、816百万円増(47.3%)となりました。
- 《ハーネス加工用機械・部品部門》 自動車・産業機器用製品などの需要が回復基調にあり、新製品開発に積極的に取り組んだ結果、884百万円増(34.6%)となりました。

7

固定資産投資

○有形固定資産取得額

279百万円

【主な投資内訳】

《建物》

- ・中国子会社の新工場建設

144百万円

《生産設備》

117百万円

- ・ベトナム子会社のワイヤーハーネス製造設備
- ・中国子会社のハーネス加工用機械・部品の製造設備
- ・北米子会社のワイヤーハーネス製造設備

44百万円

39百万円

34百万円

8

(単位:百万円)

科 目	2020年12月末		2021年6月末		増 減
	金 額	構成比	金 額	構成比	
流動資産	20,297	72.8%	22,441	72.2%	2,143
（現金及び預金）	5,381	19.3%	4,989	16.0%	△392
（受取手形及び売掛金）	8,434	30.2%	9,826	31.6%	1,391
（たな卸資産）	5,863	21.0%	6,987	22.5%	1,124
固定資産	7,599	27.2%	8,650	27.8%	1,050
（有形固定資産）	5,388	19.3%	5,628	18.1%	239
資産合計	27,897	100.0%	31,091	100.0%	3,193
負債	11,818	42.4%	13,463	43.3%	1,645
（支払手形及び買掛金）	5,350	19.2%	6,696	21.5%	1,346
（有利子負債）	3,967	14.2%	3,345	10.8%	△621
純資産	16,079	57.6%	17,627	56.7%	1,548
負債・純資産合計	27,897	100.0%	31,091	100.0%	3,193
自己資本	15,428	55.3%	17,142	55.1%	1,713

《総 資 産》

資産合計は、31,091百万円(前期末比3,193百万円増)となりました。主に、受取手形及び売掛金1,391百万円、たな卸資産1,124百万円、有形固定資産239百万円及び投資その他の資産792百万円が増加いたしました。

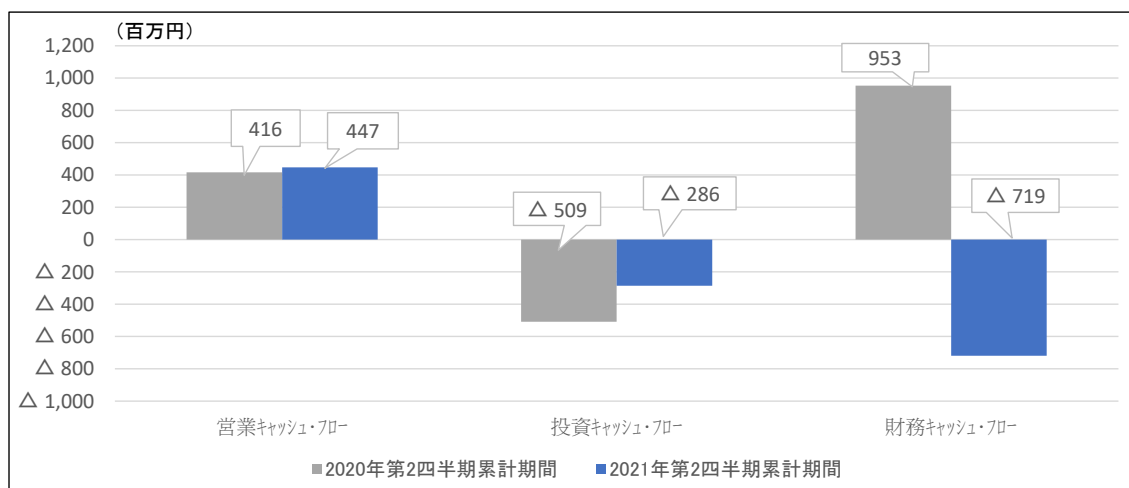
《自己資本比率》

自己資本は17,142百万円となりましたが、総資産の増加により、自己資本比率は55.3%から55.1%(前期末比0.2%減)となりました。

9

キャッシュ・フローの状況

ONAMBA CO.,LTD.



《営業活動によるキャッシュ・フロー》

営業活動によるキャッシュ・フローは、447百万円の収入となりました。主に、税金等調整前四半期純利益956百万円、減価償却費401百万円、売上債権の増加1,215百万円、たな卸資産の増加1,044百万円及び仕入債務の増加1,226百万円によるものであります。

《投資活動によるキャッシュ・フロー》

投資活動によるキャッシュ・フローは、286百万円の支出となりました。主に、有形固定資産の取得による支出279百万円によるものであります。

《財務活動によるキャッシュ・フロー》

財務活動によるキャッシュ・フローは、719百万円の支出となりました。主に、短期借入金の返済(純額)700百万円、長期借入金の調達による収入300百万円及び長期借入金の返済による支出165百万円によるものであります。

10

1. 新製品開発・開拓の推進

- ・加湿と送風の自動制御で、快適空間を提供するシステム「Tefnut/テフヌト」の納入
- ・電線新製品(CM&CL3規格対応リスティングケーブル MSFシリーズ)上市
 - －電子機器・工作機器間の通信/信号用&電力制御回路用ケーブル
- ・成長分野(環境/自動車/産業機器/情報通信等)での新規受注
 - －蓄電池・太陽光発電連携+省エネ空調制御(E & E Air)システム納入拡大
 - －EV、HV車向けステアリング/グリップセンサー用ワイヤーハーネス受注

2. ものづくり改革の推進

- ・グローバルものづくり管理指標の定着
- ・EV、HV車向けワイヤーハーネス新製品量産立上げ

3. 中国工場新築

- ・中国工場新築(2021年7月末竣工)、2021年10月生産開始予定

4. 経営基盤見直し強化

- ・生産管理、経費管理などのシステム化による業務効率向上
- ・年功制から成果主義への移行により活性化を図る新人事評価制度の定着化

11

Ⅲ. 2021年12月期の経営戦略

< 新中期経営計画 PROGRESS 2023の基本コンセプト >

- ◆グローバルな『総合配線システムメーカー』の実現に向けて、
成長戦略/生産戦略/経営体質の強化を着実に実行し、
事業構造を転換、成長を図る
- ◆『環境重視』の経営理念に基づき、脱炭素社会の実現に貢献する

1. 新製品開発・マーケット開拓の促進

- ・環境／自動車／産業機器／情報通信分野等成長分野での
深堀りによる事業拡大
- ・成長分野での新規テーマの開拓

2. ものづくり改革の推進

- ・生販技一体となった生産管理力と生産技術力の強化
- ・徹底的なトータルロスの削減と生産性向上による収益力の向上

3. 業務基盤の見直し強化

- ・システム運用効率の向上
- ・新人事評価制度の定着

12

1. 連結業績予想数値

(単位:百万円)

	2021年第2四半期 累計期間(実績)	年間見通し
売 上 高	18,509	35,000
営 業 利 益	809	1,100
経 常 利 益	955	1,200
親会社株主に帰属 する当期純利益	793	1,000

2. 配当金の状況

	第2四半期末	期 末	合 計
2020年(実績)	5円00銭	6円00銭	11円00銭
2021年(予想)	6円00銭	6円00銭	12円00銭

13

本資料の将来予想に関する記述は、経済情勢や社会情勢の変化により、実際の業績と異なる場合があることをご承知おき下さい。